

外国人らが日本の涼を味わう

流しそうめん

一ツ木町の多文化共生ガーデンで

一ツ木町4丁目にある多文化共生コミュニティガーデン「ワールド・スマイル・ガーデン」で8月18日、地域住民ら約40人が流し

そうめんを楽しんだ。一ツ木地区は外国籍の人が多く、2013年に国籍や性別、年齢に関係なく一緒に農作業などが楽しめるコミュニティガーデンを

開設。個人所有の畑を借り受けて毎年、外国人も混じってトマトやナス、花壇などを育てて収穫も行っている。流しそうめんは、日本文化に触れてもらおうと初めて企画。数人の外国人のほか、地域に住む子どもたちも参加した。半分に割った竹を約15分の長さにつ

ないで並べ、その両脇

に参加者らが箸と器を手に入スタンバイ。外国人らは流れてきたそうめんを目を丸くしながら笑顔ですくい上げ、つゆに付けておいしいそうに味わっていた。

薬味に使用したキュウリも同ガーデンで収穫したもの。フィリピンで教員を務め、愛知教育大学に留学しているロイさんは「とって

もユニークな文化。フィリピンに帰ったら、生徒たちに体験を伝え

たい」と日本語で感想を話していた。

多文化共生一ツ木実行委員長の

近藤重光さ



流しそうめんを楽しむ外国人ら

んは「外国人の人も子どもたちも、みんな楽しんでくれたようで良かった。またみんなが楽しめる企画を考えたい」と話していた。